

# 次世代ブラウザ Web and TV 概況報告

株式会社トマデジ

2011/6/13

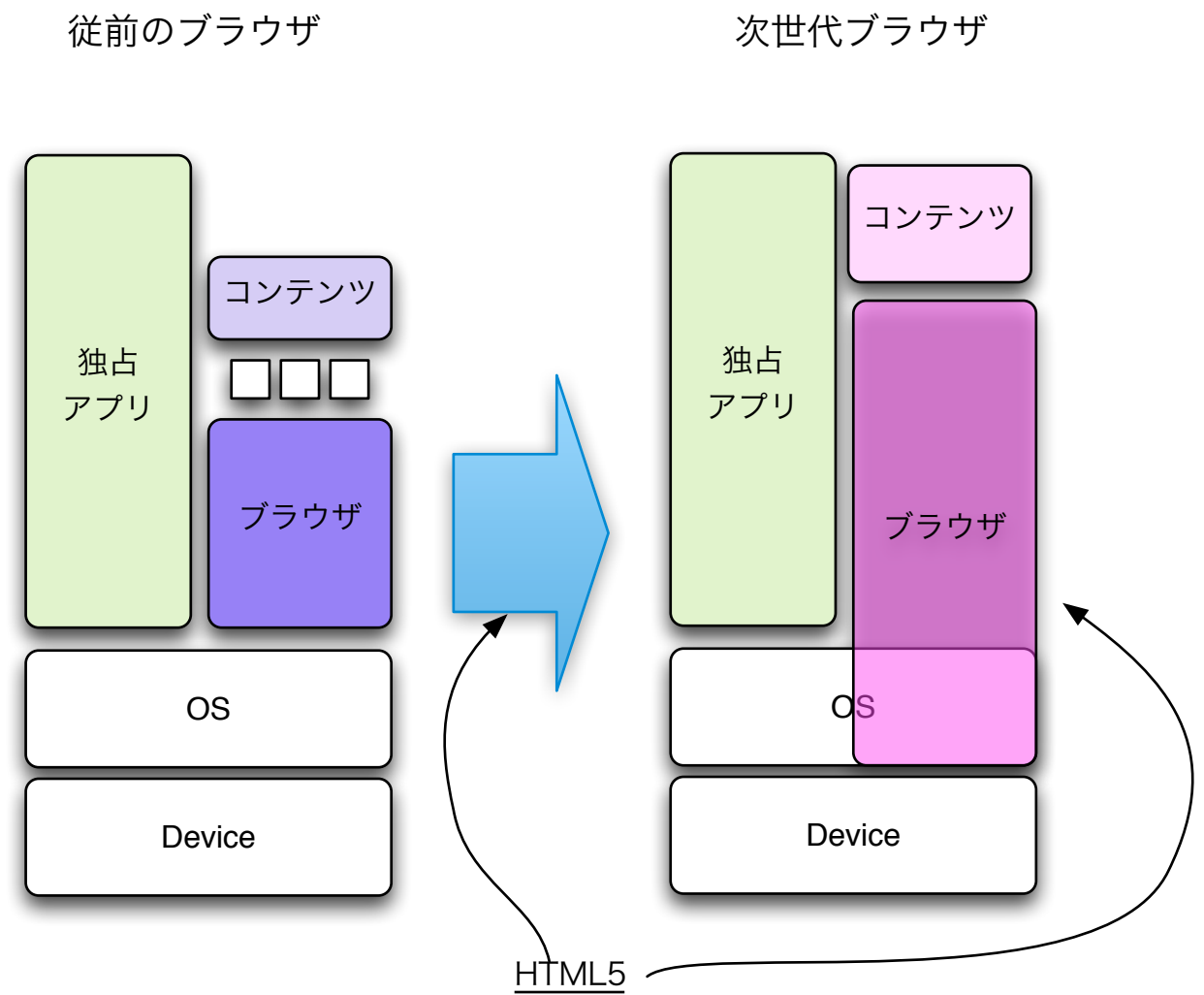
# 次世代ブラウザ Web and TV 検討会が取り組む課題とは

PCやスマートフォン用ブラウザの開発について欧米勢が主導権を持っていることは、PCやスマートフォン上の各種サービスやビジネスの主導権を欧米勢がリードするための重要な因子となっています。

ブラウザが、HTML5を中心として、情報家電におけるアプリケーション実行環境へと変化を始めた現状において、テレビを中心とした情報家電上の次世代ブラウザにおいて主導権をとることは、次世代テレビ上のビジネスやプレゼンスの主導権を決める重要な因子と想定されます。

① ブラウザはPC及びスマートフォン上の主導権を決める重要な因子です。

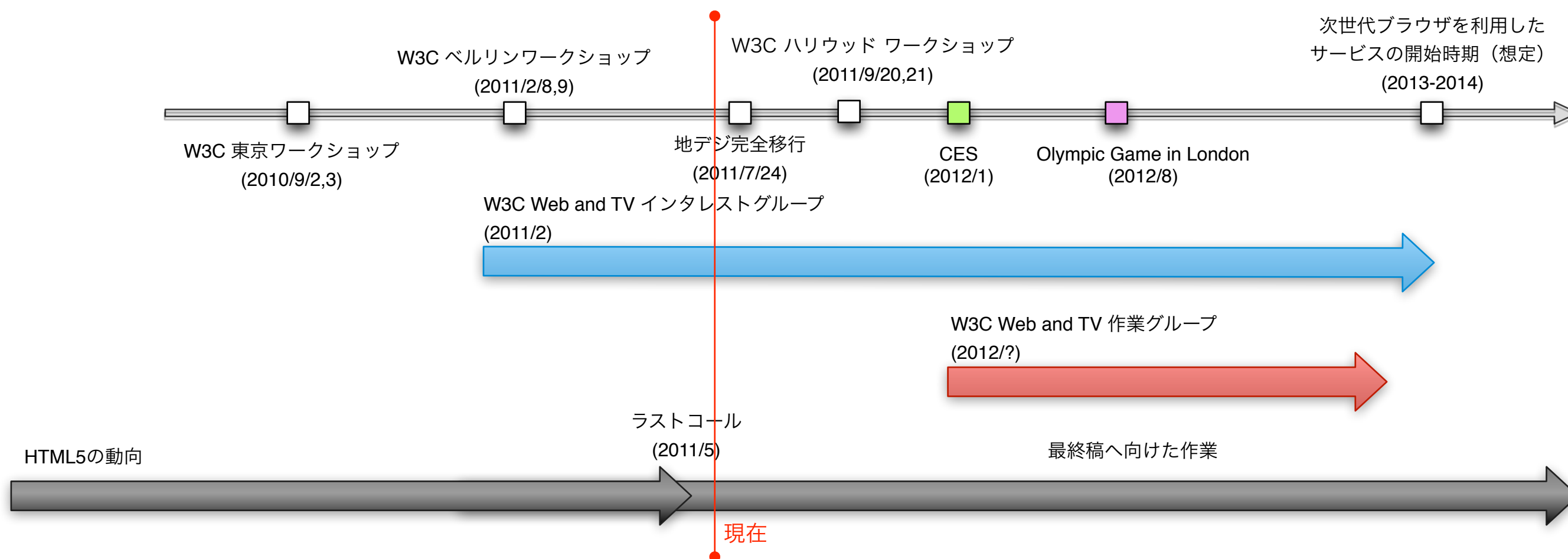
② ブラウザ自体が情報家電のアプリ実行環境に進化を始めています。



## 次世代ブラウザ Web and TV 検討会のこれまでの取組実績

- 国内ステークホルダ（放送・家電・通信）による検討体制を構築しました。企業の自主的な活動として推進しています。
- 検討体制における議論を経て、重点取組事項を明確化しました。
- 海外の放送関係者との連携の基礎を構築しました。（EBU、BBC、IRT、ZDF、TF1等）
- W3C Web and TV インタレストグループ共同議長職を日本から2名が獲得しました。（4名のうち2名）
- W3C Web and TV インタレストグループリポート第一版において、ベルリンワークショップで日本から提案した内容が数多く反映されました。
- W3C Web and TV ハリウッドワークショップ共同議長職を日本から2名が獲得しました。（4名のうち2名）

### 関連イベントスケジュール



## 次世代ブラウザ Web and TV 検討会が希求する成果

- 放送機能を起点に通信機能が連動して動作可能な「放送主導モデル」によって、日本がデジタル放送で培ってきたリアルタイムサービスが国際標準として可能となります。  
リアルタイムサービス例：  
NHK紅白歌合戦の視聴者投票  
放送番組自体をポータルとした映像コンテンツ販売  
CM映像と連動したインタラクティブ広告
- 「放送主導モデル」の推進にあたり、検討会にて明確化した6つの事項に重点を置きます。例えば、そのひとつであるセカンド・スクリーン・シナリオは、ユーザに新しい視聴体験や利便性を提供すると共に、新たなコンテンツビジネス形態を創出する可能性があります。
- 6つの重点事項の標準化を日本勢が主導することによって、サービスモデルや情報システムの海外展開や、インタラクティブ番組のフォーマット販売、そして次世代テレビ端末の海外セールスの向上などが成果として期待されます。